東京都西東京市立向台小学校第6学年

キャリア教育授業資料

働くということ

―仕事の魅力や大変さから自分の将来を考える―

2026年11月20日(金)

10時35分～11時20分



公益社団法人経済同友会
会員　林　明夫

Q：自己紹介として、小学校・中学校・高校・大学時代は、どのように過ごしたかお話ください。話しながら、気づいたこともお話ください。



A：(１)小学校は、栃木県足利市市立山辺小学校に、毎日徒歩で 20 分かけて通いました。

①足利市は、日本最古の学校「足利学校」のある街です。

②東西に「渡良瀬川」が流れ、渡良瀬川の北側の山すそには商店街や繊維工場があり、川の南側は関東平野が広がり、繊維や自動車部品などの工場がたくさんありました。



③家は、東武伊勢崎線の足利市駅のすぐ近くの商店街にあり、お米屋さんをしていました。

(２)人手が足りないため、夕方忙しいときには、近くのお客様の家に自転車でお米の配達に行き、家の手伝いをしました。高校生のときは、バイクの免許を取り、バイクで配達しました。

(３)家の前に住んでいた花園幼稚園の曽根先生が、幼稚園まで毎日連れて行ってくれました。家の隣には高校の日本史の先生、小学校の隣のクラスの担任の先生、東京の専門学校生が住んでいて、いろいろなことを教えてくれまた。ありがたく思いました。

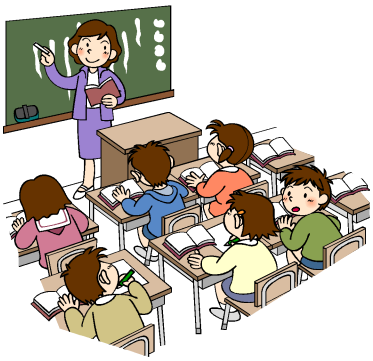


(４)家の近くに書家の「相田みつを先生」が住んでいて、家の前を散歩している姿を見たことがあります。

①学年主任の西田正 源先生は、相田先生のお友達で、何人かは相田先生から書道を習っていました。

②今でも相田みつを先生のことばは大好きです。

③「一生勉強、一生青 春」「人間だもの」



(５)子供が多い時代でしたので、小学校は１クラス 50 名、１学年７クラスでした。

①小学校４年生のクラス担任の岡典子（おかのりこ）先生から、「４年生になったのだから、新聞を毎日読むように」と教えられました。

②その日から、新聞をわかるところから毎日読むようになりました。

③５・６年生のクラス担任の高田健司（たかたけんじ）先生は、「クラス新聞」を毎日発行するように言われ、何人かのクラスメイトと「ガリ版刷り」の新聞をつくりました。



（６）新聞を毎日読んでいました。

①中学生のころには、弁護士、外交官、新聞記者になりたいと思うようになり、大学に行かねばと考え、市内にある進学校の栃木県立足利高校に進学。

②法律を勉強するために、慶応義塾（けいおうぎじゅく）大学法学部法律学科に進学しました。

③同じ高校、大学に進学した弟は、司法（しほう）試験に合格して弁護士になり大活躍。

（７）小学校の思い出は、国語の教科書をノートに「写す」という宿題です。



①国語の教科書を書き写している間に、だんだん国語が好きになってきました。

②「辞書調べ」も、小学４年生ころからかなりやりました。

③わからないことばがあると、「気持ちが悪い」ようになり、辞書が手放（てばな）せなくなりました。

④算数は、毎日計算練習。国語は、毎月漢字の書き取り練習。練習、また練習でした。

⑤全教科、教科書の音読練習をしました。

⑥これが、中学校・高校・大学に進み、とても役に立ちました。

（８）５・６年生の夏休みには、足利ユネスコ協会の「ユネスコ学校」に１週間通い、市内の小学生と仲良くなりました。



①会場の月見ヶ丘女子高等学校に天体望遠鏡があり、大感激しました。

②当時、小学校では英語を習いませんでしたが、ユネスコ学校で高校の先生から、ABC の正式な発音の仕方や英語のあいさつなどを教わり、早く英語を習いたくなりました。



③ユネスコが好きになり、開倫(かいりん)ユネスコ協会を設立。25 年目を迎えました。

(９)小学校３年生で、「市役所」や「水道山(水道施設)」「鑁阿寺(ばんなじ)(足利家の菩提寺)」、「繊維工場」など「足利市内巡り」をしました。小学校４年生で宇都宮市の「栃木県庁」や「大谷観音」、小学５年生は「日光東照宮(とうしようぐう)」に行きまた。



①小学６年生は、「江の島・鎌倉」に１泊２日の修学旅行に行きました。

②中学校の修学旅行は、京都・奈良、高校は九州(長崎・別府)でした。楽しい思い出です。



③中学時代は、柔道部に入り、毎月のように各地の大会に参加しました。

○いろいろな街を訪れることが楽しくなりました。

(10)「クラス委員」や「山鳩(やまばと)子供会委員」「クラスの当番」も楽しく行いました。「クラブ活動」は「鼓笛隊(こてきたい)」で「小太鼓(こだいこ)」を担当しました。

(11)小学校で一番よかったのは、「図書委員」です。



①図書館が好きになり、毎日行くようになりました。高校、大学でも毎日図書館に通うきっかけとなりました。

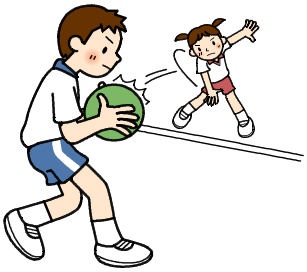
② 20 年ほど前、栃木県教育委員会から栃木県教育委員に選任(せんにん)されましたので、栃木県の公立図書館を毎月訪問しました。



③現在「文字活字文化推進機構」の評議員を務めています。学校図書館の整備や新聞、読書、書店を応援しています。「ビブリオバトル」も大応援しています。

○皆様も「ビブリオバトル」に参加なさいませんか。

(12)体育でマット運動が盛んでした。



①中学校に入り、柔道部で役立ちました。

②休み時間や放課後は「ドッジボール」を楽しみました。以来、ドッジボールが好きになりました。

③開倫ユネスコ協会では、春に年１回「KAIRIN 杯ドッジボール選手権大会」を栃木県や福島県ドッジボール協会と共催し、台湾チームも参加して、盛り上げております。

(13)小学校時代の最大の思い出は、「健康優良児、栃木県準１位に選ばれたこと」です。



①足利市代表として一緒に県の審査に行った襟川(えりかわ)陽一君は、高校でも３年間同じクラスでした。

②大学も同じ慶應義塾大学に進学しました。襟川君は、シュミレーション・ゲームソフト「信長の野望」「三国志」をつくっているコーエーテクモの創業者。今も大活躍(だいかつやく)中です。



(14)＜ご参考＞足利高校で３年間同じクラスで過ごした 50 名の同級生のうち、６名が「医学部」に進学しました。

①なぜか、このクラスは３年間国語を担当した倉沢先生の影響で、よく本を読むクラスでした。高校の図書館にある本で、自分の気に入った作家の代表作はどんどん読む。本は最後まで読む。本は何回も読む。本は全集で読むなど、「本の読み方」「読書の基本」を教えていただきました。

②先生の教えに従い、同じクラスの医学部志望者も図書館によく通いました。高い学力の基礎は「読解力」です。



③よく本を読み、ほかの医学部受験生と比べて「読解力」がついたためか、医学部への進学を果たしたと思われます。

○辞書や新聞、読書、図書館に慣れ親しむことは、「読解力」を身につけることにつながります。

○小学６年生は、そろそろ図書館や書店の「YA(ヤング・アダルト)コーナー」、「ティーンエイジャー向けのコーナー」にある本に挑戦(ちょうせん)することをおすすめします。

(15)＜まとめ＞このように思い返せば、小学校の時に学んだことや、行ったこと、経験したことが、中学校や高校、大学、卒業後の仕事の活動につながっていることがわかります。



Q：将来に向けて、今から大切にしてもらいたいことは何ですか。

A：(１)「小学校・中学校・高校で学ぶすべての教科」の勉強です。

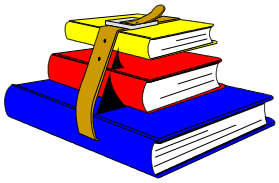
①なぜなら、「学校で学ぶすべての教科」の内容は、「全部、役に立つからです」



②小学校の内容は中学校で、中学校の内容は高校で、全部役に立ちます。

③高校で学んだ内容は大学、専門学校、大学院ですべて役に立ちます。

(２)「学校で学んだすべての教科の内容」は、社会に出て「仕事」「社会的活動」「日常生活」で全部役に立ちます。



①「よく生きる」ためにも、全部役に立ちます。

②学校で学ぶ教科で、役に立たない教科は一つもありません。

③一生、役に立ちます。

(３)ですから、大事なことは、学校で学んだ「教科書」「ノート」「授業ノート」「辞書」「地図帳」「年表」などは、卒業後も決して処分しないことです。



①大事な「宝物」として保存し、折に触れて読み直すと、すぐに思い出せます。さっと思い出すことができ、学んだことを自分のことばで言える(表現・説明できる)ようになります。

○学校で「学んだことをサッと取り出し、用いること」ができます。

②大事なのは、学んだ教科書や辞書などを身近において、いつでも「学び直しができるようにしておくこと」です。「刀」もさび付いていては、さやから抜けず、役に立ちません。



③社会に出てからも、新しく学ぶことが山ほどあります。「学んだことを、自分のことばで言える(表現・説明できる)」ことを目指しましょう。

Q：学校の「教科」以外の活動も、社会に出て役に立ちますか。

A：(１)学校で行なう「教科外教育活動」は、社会に出てすべて役に立ちます。

(２)「入学式」「卒業式」「各学期の始業式、終業式」「朝礼」「運動会」「コーラス発表会」「移動教室」「芸術鑑賞」「避難訓練」「防災訓練」など様々な「学校行事」もすべて役に立ちます。



(３)「ホームルーム」「当番」「学級会」「児童会・子供会」「クラブ活動」「ボランティア活動」も、すべて役に立ちます。

(４)①特に役に立つのは、様々なプログラムには、その「目的」があり、その目的を達成するために、みんなで力を合わせ、協力しながらチャレンジするという「取り組みの姿勢」です。

②「話し合い」「打ち合せ」を行ない、自分の役割を知り、行うべきことを行う。「自分から進んで行う」。質問があれば質問し、意見があれば述べる。そして、「みんなで決めたことは、自分から進んで行う」

③大事なことは、「必ず、メモを取る」ことです。

○「メモを大切にし、みんなで決めたことは、自分から進んで実行する」

○「授業中に大切なことはノートにする」ことは、「メモ」をとる練習になります。



○仕事でもメモは役立ちます。「仕事はメモで身につける」ともいわれます。

Q：仕事とは何ですか。仕事の魅力（みりょく）や大変さは何ですか。



A：(1)働くとは、仕事をすることです。

(2)仕事とは、「もの（製品)」や「サービス」を「お客様」に提供し、「お客様」のお役に立つことです。

(3)「お客様のお役に立つ」とは、お客様が困っていること（問題）を解決すること。



(4)同じような「もの」や「サービス」を必要とするお客様が「世の中」にはたくさんいらっしゃいますので、「仕事とは、お客様や世の中のお役に立つこと」と考えます。

○「お客様や世の中のお役に立つこと」が、仕事の「魅力」「やりがい」につながります。

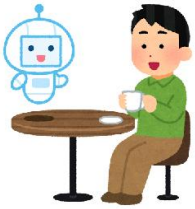
(5)「世の中の変化のスピード」はとても速く、お客様の困っていることや問題、お客様が必要とすることがどんどん変化し続けます。また、競争相手がどんどん出てきます。これが、「仕事の大変さ」です。



○これら加え、大地震、洪水、火災、パンデミック、戦争などは、仕事をストップさせます。

でも、あきらめたらおしまいです。「ネバーギブアップ」でいきましょう。

(6)生成 AI や技術も、超スピードで進化し続けています。



①これを、どう仕事に生かすか。

②「いろいろなものを組み合わせ、新しいものやサービスをつくり、世の中に送り出すこと」を「イノベーション」といいます。

③「どのように、イノベーションを行うか」が、最大の問題です。

○「スマホ」を１日に長時間使い続けるのは避けましょう。

○「15 分ごとに休み時間を」

○「スマホは、必要な時間だけ使用する」

「スマホで調べたことは、ノートに書き写す」



Q：将来に向け、今から大切にしてほしいことは何ですか。

A：（1）「健康第一」です。

①家庭科や、中学校で「保健」をしっかり学び、また、理科の授業で「人体や生物」の仕組みをよく学び、自分の「体」を大切にしてください。

「健康診断」の結果は大切にし、「治療した方がよいものは、どんどん治す」。



②「どんな病気になってもあきらめない。がんばりましょう」。

③「自助努力（じじょどりょく）」「自分の身は自分で助ける」。

（2）「スポーツの３つの宝」小泉信三先生（慶応義塾塾長）

①「練習は不可能（ふかのう）を可能にする」



②「フェアプレイ」…対戦相手を尊敬する。

③「よき友」

（3）①仕事は、「チーム」で行います。「励ましあう仲間づくり」。

②「チームにはリーダーが必要」。

③「リーダーはえばらない」「みなんやさしく」「人のせいにしない」「あきらめない」



（4）「自覚をもって学ぶ」「自分から進んで学ぶ」。

（5）「効果の上がる勉強の仕方を工夫する」。

○「学習の仕方」「授業の受け方」「復習の仕方」「定着のさせ方」「テストの受け方」。

（6）「学んだことを、自分のことばで言える（表現・説明できる）」ことを目指しましょう。



（7）「５Ｓ（Ｓではじまる５つのことば）」も大切

①「整理（せいり）」（seiri）　…「いらないものを処分する」
②「清掃（せいそう）」（seisou）　…「きれいに掃除（そうじ）をする」
③「整頓（せいとん）」（seiton）　…「ものは同じ場所に置く」
④「清潔（せいけつ）」（seiketsu）　…「①～③を保つ」

⑤「躾（しつけ）」(shitsuke)　…「自分から進んで行う」

○「忘れ物」の多い人は、「整頓（せいとん）(ものは、おなじところに置く)」に挑戦！

○いつも「遅刻（ちこく）」しそうな人は、「30 分前到着」に挑戦！

(８)別の意味の「躾（しつけ）」も大切です

①「美しい立居振舞（たちいふるま）い」…「お先にどうぞ」「服装第一」

②「美しい言葉遣（ことばづか）い」…「仕事では、です・ますで話す」「メールはていねい語で」

③「元気なあいさつ」…「あいさつはこちらからする」



Q：どのような仕事や活動をしていますか。

A：(１)開倫塾（かいりん） 塾長、開倫塾日本語学校 理事長・校長、開倫ユネスコ協会 会長

(２)有朋（ゆうほう）学園有朋高等学院理事長(福島市)

(３)特別養護老人ホーム清明苑（せいめいえん） 監事（かんじ）(足利市)

(４)マニー株式会社社外取締役(2004 ～ 2010 年)

○栃木県に本社、ベトナム・ミャンマー・ラオスに現地の会社

(５)宇都宮大学工学部 客員教授（きゃくいんきょうじゅ）、作新学院大学（さくしんがくいん） 客員教授

(６)文字（もじ）・活字文化推進機構（かつじぶんかすいしんきこう） 評議員（ひょうぎいん）

(７)ＣＲＴラジオ栃木放送「林明夫の歩きながら考える」毎週土曜日午前 9 時 15 分～ 25 分担当(40 年目)

＊社会人を含め「効果の上がる学習方法」をお話する番組です

今日は、お話を聞いていただき、ありがとうございました。

心から感謝いたします。

ご質問やご意見、ご感想などあれば、どうかご自由に発言ください。

ありがとうございました。

